

淺間普第三二六號

道英  
廣船  
同英  
國週  
航記  
事第  
二面  
報生

海  
軍

0194

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

遣英艦隊庫艦淺間英國廻航記事第一回報告

自横須賀至新嘉坡

明治三十五年三月十三日海軍省庫務局第一課長横須賀鎮

守府参謀長宛テ左ノ照会アリ

庫艦淺間高砂ハ不日常備艦隊ニ編入セシメ四月上旬本邦出發

大不列顛國派遣セラルル脚力是ニ有之候條修理之事試運轉ハ大至急

進行セシメテ度其他ノ件ハ大至急準備方可然脚取計

相成度此改命ニ依リ申進候也

尋テ今十六日午前十時四十分本艦ハ常備艦隊ニ編入セラルル而シテ

時第一豫備艦トナリ横須賀員庫艦ニ較密留シ且ツ廿四年以來後

務ニ服ミタル結果修理之事ヲ要スルハ少ナクサレハ是負ハ百ニ名ノ欠負

ナリテラ以テ前記ノ内命ヲ持スト今時ニ大至急之事ヲ命シ又是負補充

ヲ天横須賀鎮守府ニ申シ直リニ之ニ着手セリ

今十七日角田常備艦隊司令官ヨリ本艦ヲ横須賀鎮守府艦隊司令官ノ

旗艦ニ指是ヤミスルヲ以テ其増加員補充ヲモ横濱賀鎮守府ニ上  
申請求セリ

今十九日午前七時ヨリ石炭及ヒ罐水ヲ滿載ス石炭搭載噸數ハ千  
四百四十噸ニシテ今廿日午後二時ニ十分ヲ以テ結了セリ午三時俾集  
院司令官乗艦セシ幕僚員部少佐中島大尉之ニ從テ爰ニ於テ  
前橋ニ少將旗ヲ掲揚スリ又大不列顛孤遣ノ力俾愈々確度トナリ  
シラテ從テ艦内ノ事業亦頻頻系ノ極ノ厚砲科其他各科各約八ヶ  
月間ノ需品及衣糧搭載ニ着手シ後甲板ノ敷日ノ割需品ヲ以テ  
立錐ノ余地ナキ迄ニ滿タシシカ廿九日ニ至テ結了セリ抑今因津浦高砂  
ノ西艦載府式卷列ノ爲ノ艦隊ヲ組ミ遠ク長万二千余里ノ波濤ヲ起  
テ列國孤遣ノ厚艦ヲ運働シ共ニスルノ廣ニ未嘗有ノ事トシテ特ニ去  
レテ七八年於ルル日請戰役及世三年於ケル清國事變ニ依リ甲國ノ武  
威ハ大ニ發揚セシ各國注視ノ中心矣ナルヘケバ從テ其ノ籌一動ハ

編分社印刷

我海軍全班關係人頗大ナリ覺テ今時ニ泰負一同ノ

責任度ニ重大ナラスレバアラサルナリ

同二十日英國派遣ノ臨時交換及渡付リ上申セシモノ尤ノ如シ

一今般大不列顛國ニ派遣セラルト付テハ下士卒被服中正服外

套帽子ヲラレシ襪袴汚損ニ拍シテ臨時交換相成度

一右同様ノ附子腹巻袴靴下士卒給與相成度

註右上申ニ付夏服畧帽臨時交換ノ件允許

一イハルニネーレヨレ用トシテ尤記ノ物占臨時供給相成度

一白執電燈 スワッチ 六〇〇個

一陸用電信線 ハナカハルノトキニ六線光 四〇〇〇束

一護換帶 五吉尾

一護換液 七尾吉尾

一白熱電燈球 四千六百個

一 禮砲用トシテ左記ノ物ニ必要ト認メ候条臨時供付相成度

一 十二斤速射砲用筒氣火管 六〇〇〇 四

一 四十七密速射砲用空砲裝藥 四〇〇〇 癸

一 十二斤速射砲用空砲裝藥 三〇〇〇 癸

今廿七日午後一時三十六分横濱が員鎮守府司令長官并上大将来訪

艦カヲ巡視セラル又諸般準備進涉セラル本是訓令ヲ受領セリ

中尾艦長ニ其ル訓令

一 其艦於テ目下施行中ノ諸事手入及航海準備等完整

セバ便宜横濱港へ回艦スヘシ

二 横濱へ回艦ノ機ヲ利用シ自差側是出入港操練弱者救助操

練等ヲ施行スヘシ

三 来四月五日以前に於テ便宜乘負各自之四十八時前迄ノ臨時上

陸ヲ請スヘシ

海軍分社印刷

西樞瀨面艦セハス日時ハ成ルハ速ニ之ヲ豫定ニ報出スヘ  
シ

司令官

全三十一日昨日ヲ以テ諸工率及ヒ航海準備全ク完整ナレバ故ニ本日

ヨリ乗員ノ半艦宛ニ四十八時ノ休暇ヲ許ス可キ

四月一日浅間高砂西艦ヲ大不列顛國皇帝皇后兩陛下戴

冠式参列ノ為メ派遣セラル上旬ノ電報會令ヲ受領セリ

同日浅間高砂西艦乗組士官全相若官等トテ手教ヲ授ケ

順所参拜仰付ケテ又下士五十四名ニハ順所参拜仰付ケテ

午後三時伊集院司令官宛ニテ山本海軍大臣ヨリ左ノ別紙ト贈呈ラ

辱フセリ

海軍大臣ヨリノ書翰

拜啓陳者今般大不列顛國皇帝皇后兩陛下戴冠式



横濱分社印刷

0201

マクノナード氏ヲ乗セテ横濱ヨリ入港警備員ニ送リ同公使ハ岩手鎮守府  
 司倉長官方計ハ為人未だ未タセラズルニテ入港後直ニ同船ヨリ  
 皇禮館ヲ立寄リ同倉長官ニ禮節ヲ為シテ放シ厚款ヲ送リ  
 各船アリ又伊集院司倉長官ハ今船ヲ討問セシメテ是船ノ際十五癸  
 ノ礼館ヲ多シ同船ハ午後四時ハ横濱港ニ停シ  
 同四日午前十時五分頃石言多船乗取士官令出寄リ後船ヲ持  
 取同船ハ翌日午後四時又下士五十二名ノ船ヲ乗取  
 付ラシ船ヲ四年十二時兩船乗取上長官以上ノ御禮金付付  
 コシナリ

午下昔英礼家余令才一長ラ矢領ス左ノ如シ  
 才英礼家余令才一

一ノ花御召言新ヲ大別列敷ニ流寄セシメらん一昔法  
 七三九係ヲ本船既ニ来四月七日午十一時ヲ期ニ横濱

ヲ出せしより西船ハ一箇ノ西を起して右に改旗降揚す見

成る可し

二船降ノ速力ハ一節微速力四節トス

三兵火ノ時流鏡ノ敷及兵火ノ時刻若各船長志願す之

をいふ可し

司令

同五の年おのり浅官官船ノ二船お誘サテ於此等々

お此し漢口にせんヤチ船ハ一箇ノ西を起して右に改旗降揚す見

ヲ針路ヲ横決ニ変ス本船ハ一箇ノ西を起して右に改旗降揚す見

シヨリ觀者海附近ニ於テ自差備正リ行ヒ其間ハ火

ツカハ弱者救射等ノ諸操練ヲ行ヒ且時對供正リ

改リテ於此大規模操練ヲ在泊英船ハ一箇ノ西を起して右に改旗降揚す見

并ニ於此大規模操練ヲ在泊英船ハ一箇ノ西を起して右に改旗降揚す見

横濱分社印

中五等ノ名禮ノ行ハリ

本日大石列御官名官后兩陛下戴冠式ノ為ノ礼者

ニ付衆卿士官人共者以下ノ思召ラシテ時ニ御酒肴

料ヲ賜ルニ左ノ如シ

士友 吉田 達士友 下士 五拾錢

卒、備人 五拾錢

又海中若ヨリ特別ヲ以テ服裝手者金ヲ支給スルニ由ル

ノ如シ

司人 吉田 武五〇圓

上長官 吉田 武五〇圓

士友 吉田 吉〇〇圓

浄手者 吉田 五〇圓

同六日減百振テ司人長ヨリ謝礼ヲ多ク御禮奉ル士

0203

右全お名取、多換り招待し午膳居り郷居り暮宿り  
 余名、三日、本郵船會社橋上り乗居り、休島、  
 元子、本船、往、上、り、通、り、雨、飛、り、不、甚、儀、水、不、  
 此、白、葉、毛、行、り、旅、路、際、言、り、名、取、言、り、不、  
 旅、路、際、言、り、名、取、言、り、不、  
 此、白、葉、毛、行、り、旅、路、際、言、り、名、取、言、り、不、

地名 島月 飛月 渡敷 旅行 回数 陸路 回数

横濱 四月七日 午後一時半

新島坂 四月三日 四月三日 二千九百九十九哩 十二日 十一時間 二日

コロシボ 四月三日 五月二日 一千六百哩 六日 十六時間 一日

スエズ 五月十六日 五月十六日 三千四百哩 十四日 十四時間 一日

ポートセド 五月十七日 五月十九日 八百六十哩 四日間 一日

マレタ 五月三十一日 五月三十一日 九百六十哩 四日間 二日

アリマウ又六月四日

尋ね給海軍官長等御座り候事  
 同七兩手おす内閣御座り候事  
 此等途々祝言あり奉り候事  
 士官中於て古來兼治士官一同  
 一時之令御座り候事以下正  
 風刑別劇レシテルルルルル  
 花御座り候事又特記之平ハ  
 武内木村御座り候事御座り  
 西花兼治士官一同御座り候事  
 士官中於て古來兼治士官一同  
 午後一時御座り候事御座り  
 殿下禮状御座り候事御座り

横濱分館印刷

0205

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

諸般方面英皇皇后陛下戴冠式を烈々持  
 我形像一部の似せやうに事なされし中  
 君の盛子と我を御中の人形素格の能い  
 不肖の身より教を以て行はせしめたる  
 又心愛ふ所と最に愛せしめたる所と  
 感激するに事なきは御前より御代り  
 甚き御恩に事なきは御前より御代り  
 慶かり仰る事なきは御前より御代り

四月七日

年法未詳

手紙一帖指為し見せしめ奉りて我行り  
 時々天候不穏にて風の劇波浪を  
 艇ノ介操者未操能困難なり  
 艇ノ介操者未操能困難なり













約十哩見の新島より台湾海峡入り舟が横台に向つて針  
路を取り

正午迄は北風浪甚

九月廿四日の事

午後

二時半

浪甚

最高浪

舟

焼

風より浪をおす時浪より船計急変と風力甚多強ク七乃至八に  
達し又浪が船より襲つて最大傾斜十七度達ス又船の最大傾  
斜四半度を達せり而して浪が船を押し上りお七時狂浪甲敷に  
起り船内を破壊し又る船を破入し右に船庫の南に波  
鏡を浸れしむるが波の別り高し舟を乗せし波力ヲ強ク其列  
三より待たし九時半より引渡すにたり此の如く波浪高  
かりしより高砂の入り因難なり思ふ豫て台湾海峡通過

ノ者ナリシヲ改テ南西汝島ノ七山行テ流テ旅シテ及セリ且ニ  
力減リテシテ意ニテテリ流テ旅シテ及セリ且ニ  
右ニ針路ヲ示シテ此日風浪甚カリシニ云ク天波ヲおとす  
正午ヲ真時ニ改ム即チおとす建リコトナシ今世科ナリキ

正午ニ改ム是流甚カキ

才一集ノ末

才三集ノ末

全流ノ末

是流甚カキ

是流甚カキ

是流甚カキ

五十九

同去昔流年ナリ時十分ナリテ其換リ行ニ及テ各島陸部ニ出テ  
流ヲ急リ是ノ存流去月ナリ常流陸部ニ出テ大ヤシテ其  
正午ニ補交知ラズ其ノ事終リ来リテ若シハ諸探練ノ  
正午ニ補交知ラズ其ノ事終リ来リテ若シハ諸探練ノ





皇清分館印

今日英皇皇太后陛下御下戴冠式を奉行せらるる  
に於て浅くも言ふに御持の儀に於ては列の儀も分り  
申古き事なり本邦の儀に於ては列の儀も分り  
ハ嘉文事案ト云ふに諸子先榮ヲ祝ス同時ニ聊  
カ訓示スルコトアリ

抑も皇太后陛下の御下戴冠式を奉行せらるるに  
御下戴冠式に於ては御持の儀に於ては列の儀も分り  
諸子に御下戴冠式に於ては御持の儀に於ては列の儀も分り  
クルト云ふ事あり言フヲ待タズ又以テ行ハルニ一艦ノ行動アリ  
一奉ノ動作ト云ふ事あり言フヲ待タズ又以テ行ハルニ一艦ノ行動アリ  
ノ環視ヲ欠クベク且我ガ必勢ノ進ニ伴ヒ皇表ニ我リ  
輕視セシモノト云ふ事あり言フヲ待タズ又以テ行ハルニ一艦ノ行動アリ  
ト云ふ事あり言フヲ待タズ又以テ行ハルニ一艦ノ行動アリ

0217

ヲ推新スルノ標準スルヲ録記シ屬一層信重ノ行部

ヲ取シテモリキヤシク

右一昨七日海軍大臣カ親シク本旗本海軍ノ臨ニ本職

及再航長以下諸君ニ訓誨セシク大意思ニ多角田等

備前陸下各君ハ本職ニ訓示セシクトモ亦此ノ意思

トナラス諸君共ニ春々服膺スルキトナリ

思フニ諸君今固ハ本職ノ望ヲ蒙リ必スヤ大自ノ持カ及

技能ノ勝ルモノトニ因ハ勿論ナシモ亦其以上ニ期待セシク

トコロアンベキコトニ固意セザルハカラス汝子ハ任所ノ任

ルヲ思ヒ又其光榮ノ大ナル盛衰モ彼ニ對スルニ率

直眞摯ノ精神ヲ以テ最モ其佳作進退ヲ謹ミ能ク我

海軍大臣ノ名譽ヲ榮揚スル務アリ又下士率一被ニ向

ツテモ先分ニ此トモ依ヤムハ本職ノ時ニ希ハスルニナリ

12





後部分に印あり

吾人共々寒心する事ありき故に我侪人先モノを  
彼徳屋に勅諭吾等素戴に改に今日程に  
之を益々精研技術に優養を以て他日吾人  
族に乘る事トスル更だ十九西の事ト云ふんノ  
賞格十九入カラスト

明治三十年四月九日皇陛下御祝ひ申上り候旨に依り

常陸社後入会名簿に記す

正年進上名簿に記す

全祝程

最上進上名簿

第一集名簿

第二集名簿

今書年方四時奉命都井崎のいりヨリ初メテ一氣に反

0221

自

旅スルニ居ス其ノ何能スラ知ル能ハカリシモ之ニ因テ我ニ  
 信ヲ送ルヲ申シ建徳セリ年及ニ時大燒嶼ヲ見ルノ事  
 位至ニ年及セリト云フ天ノ氣波騰トシテ之ヲ認ル能ハス  
 二台湾會合ニ申シテ其ノ意ヲ申シテ其ノ事ヲ言フ  
 シルアルノ事即チ之ヲ目的トシテ海山岸ニ接近ス然レモ年及ニ時  
 其ノ事ヲ陰ニ知ル所ナシ火燒嶼ノ懸景ヲ右舷ニ見  
 認メカバ其ノ事即チ之ヲ知リ矣リ尋テ九時十五分  
 于勅語ヲ奉讀ス十時于右舷ニ見テ台湾南嶼ノ景色如  
 メテ現心カリ云云云云 傳信ノ事ヲ掲ケテ Telegraph the

Collecting messages to the Admiralty in Tokyo. We are all well at  
 good bye. 信ヲ送ルノ事ヲ言フ

三千五百米突至東ニ傳信ノ事ヲ言フ  
 也并リ以テ空放一袋ヲ放テ以テ知ル事ヲ言フ

0222

横濱分社印刷

三人船台より走りぬる者あり認めし左時と見信号等にて我  
必旗ヲ掲揚し以テ我々対テ教礼ヲナセリト云々未ダ信  
号ニ交ハスニテ本船ハ漸ク燈台ヨリ多ク離レテ至リ云々松テ  
米カラ緩ノ尚ホ多信ヲ待テニ此際至ク云々西と南岬  
防止ヲ機ヒシヨリテ到底我カ目的ヲ達ス能ハサルヲ察  
北勢松ニテ中止シ針路ヲ南西ト改メ此際松ノ  
北西角ホテ止ル燈台ニ向テ水泳法ニヨリ南岬ヨリ南岬  
トシ礁ノ台ニ至ル所ノ被岸岸音クシテ異常状ヲ示スト  
船中者等カ果シテ百シ面航セハ然ルに松ノ流強クシテ波濤  
迫ルニ至リテ洩沫高ク海面ニ波力元ク大なり南岬角  
防止ヨリ大陰惡クテ風浪右舷ヨリ強ク吹テ来リテ船  
ノ揺甚し

正徳二年八月廿七日

本隊西軍書

合致程

豊下温春

一葉在案

聖葉在案

古八条

新武振抄地漕

皇代温春七子条

和平日山知倉

新嘉坡

合下らよふの五時半五分在脈 脈音より向て山影り法

是し温春の角とて進み後と温春の温春とてより始る天氣爽

快温及半つ及る温し暑氣類と云ふに温春の温春とてより始る

温春の温春とてより始る温春の温春とてより始る

温春の温春とてより始る温春の温春とてより始る

温春の温春とてより始る温春の温春とてより始る

温春の温春とてより始る温春の温春とてより始る

温春の温春とてより始る温春の温春とてより始る

温春の温春とてより始る温春の温春とてより始る

0224

横浜分社印刷

二十七日之り元はし六時午ふ開散ス流口温波ハ半冷五前反  
ヲ示ス

左十出口吹キ赤七時温欠ニ被取沈滞ノ岸ハ流下木免是換  
コリノ皆天氣爽快海雲亦穏トモ暑熱甚々トシ流波下  
流ニ速ス

皇宗嶋ヲ新前坡ニ去リ航路ハ信州期ニ長ヒニツクハ(パラワン)

航路ニ至リ南西信州期ニ際シ(パラワン)嶋ニ沿リ航路ナリハ東

北信州中支那海ニ航路ニ更ニ下航路ニ昔ト支那海ヲ下

新前坡ニ向リ航路ナキ新航路ハ身ニ名ニ直リ(スカイボイ)燃

ノ北方ヲ過(ミナト)ハバ(附道)ヲ行テ航路ニ新航路

地ニ向リ極遠ニ至リ(スカイボイ)燃ノ

北方(中)ノ所ニ航路ニ在リ知レリ

今日ノ午(右)ヲ高砂海軍操縦ニ附在ル流波ノ急下在

0225'













凡一若少才、中、番、永、若、合、計、四、十、四、名、内、其、業、七、  
名、正、氏、信、業、性、の、如、き、一、人、を、ナ、リ、於、内、一、名、康、徳、ル、  
也、ナ、リ

清 年

吉 及 報 告 終 也

明治三十五年四月廿五日 於 新 志 波  
清 及 報 告 中 局 終

中 局 終 局 及 報 告 中 局 終

0232